

A. 第三者評価結果（「機関評価」の部分）

評価スケール	自己評価	機関評価	評価スケール	自己評価	機関評価	評価スケール	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	B	A	6.2.1	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.2	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	A	A	6.2.3	A	A
1.2.1	A	A	2.3.8	A	A	6.2.4	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A
1.4.1	A	A	2.4.2	A	A	6.2.9	A	A
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	A	A
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	A	A
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	A	A
1.4.5	A	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.1	B	B	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
1.4.8	A	A	3.1.3	A	A	7.3.1	A	A
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A
1.5.2	A	A	3.1.5	A	非	7.3.3	A	A
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A
2.1.2	A	A	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	A	A
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A
2.2.5	A	A	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A
2.2.6	A	A	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	A	A
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	A	A
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	A	A
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
2.3.2	A	A	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A
2.3.3	A	A	6.1.2	A	A			

B. 評価機関の所見

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール番号	内 容
1-4-5	毎年1回、自己申告書の提出にて職員の意向を確認しています。退職の予定、研修の希望など意向把握のほか、「仕事に対する評価」として、難しさ、仕事量、適正、能力となった、健康面、総合評価を記載する項目があり、自分自身の振り返りも行うことができる書式となっています。振り返りを通して次年度に向けて自分の意向を表明することは双方にとって客観的に現状を捉える良い機会となっています。

2-3-4 2-3-5	<p>コミュニティのアクティビティの一環として、今年度より「号館別懇談会」を実施しています。運営懇談会は実施しているが、形式的なものとなっていないか、運営懇談会の在り方はどうなのか、ざっくばらんに話をする場を設けてほしいという意見が入居者からあがったことを受けて始めたのが、「号館別懇談会」です。参加者は、施設長、主任、施設維持担当職員と入居者で構成され、その中で事業計画に内容なども報告し、入居者からの意見をいただき、取り入れられるところを検討しています。また、号館別ということで入居者同士が交流を持つ機会にもつながっています。残したくない発言もあることから、お茶やお菓子をいただきながら、改めて議事録を作成することもなく実施しています。入居者が様々な希望、要望、意見を言いやすい環境を整え、今後の運営に活かしていくことが入居者の希望であることを、ホームは真摯に受け止め対応しています。</p>
4-1-4	<p>介護棟の入居者の方で、座位が取れずに寝たままの状態でも理容が可能な業者を追加しました。また、食べたいお菓子を取り寄せたい、販売に来てほしいとの声から「アフタヌーンティ」と題してその機会を設けました。衣類販売についても予めどのような衣類を購入したいのかなどを事前に把握して、希望に合った衣類をそろえて販売に来ていただくことで、入居者の購買率もあがり、業者にとっても良い結果をもたらしています。外にでることも、日常生活の中でも不自由な点があっても、ホーム内でも喜びを味わえるよう、機会を設けています。</p>
4-2-2	<p>多岐に渡る季節感あるアクティビティを提供しています。その中で、入居者個人がやりたいことも実現できるよう、サークル活動の立ち上げにも積極的に協力しています。月4回で実施している「ダーツの会」では、内1回は職員も参加してコミュニケーションを図っています。自立に方と介護棟の方も一緒に音楽を楽しむ「ドレミの会」からは、新たにコーラス部も誕生しています。また、介護棟内にある「茶房」では、イベントを企画して実施をしていることで、自立の入居者も介護棟に訪れることが増えてきており介護棟の入居者とのコミュニケーションを図る良い機会となっています。すべての入居者の方々が自分らしく生活を楽しめるよう、趣向を凝らして取り組んでいます。</p>
6-2-8	<p>入居者の様子を家族等にお知らせする際、希望する家族に対しては、介護記録の内容を抜粋したものを作成し、1ヶ月の入居者の状況を伝えています。入居者がどのような状況で生活しているのかも知ると同時に、職員がどのように入居者のケアを実施しているのかも確認できる取り組みです。また、ケアプラン作成時にも家族が状況を把握した中で要望を整理できる利点となることも期待できます。</p>
7-6-3	<p>入居者の服薬支援は看護師を中心に行われています。服薬チェック表には、入居者個人別に、錠数、包数が記載され、声だして確認するなどのほか、介助方法、確認方法についても記載しています。新入職時や初めてその入居者に関わる時にも有効な情報で、日常的に活用できるマニュアル的な役割を果たしています。</p>

2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール番号	内 容
2-4-2	<p>業務マニュアルは毎年4月1日付けで見直したマニュアルを差し替えています。日々、マニュアルで示された内容に従って統一感ある業務を行えるよう取り組んでいることが、毎年見直しを行っていることからもうかがえます。しかしながら、見直しして改定となった部分がどこなのかが、マニュアルをみただけでは判明できない状態にあります。全体を差し替えているため、せつかくの変更点が特定しにくくなっています。変更点こそ、全体で共有する必要のある箇所なので、確認しやすいよう工夫することが期待されます。</p>
4-1-2	<p>入居者預り金等取扱規程にて、入居者からの依頼に基づき事務処理をすることが明記されています。実際に入居者が実費精算する日常的な支出については立替金での処理を行っていますが、立替金に関する管理方法の記載は少し不明確となっています。入居者等にも改めてその管理方法を分かりやすく伝えられるよう工夫することが期待されます。</p>